

# 国際土壌年 (International Year of Soils) とは

**2015年を期間として設定された国際年。2013年12月に行われた国連総会(第68会期)において、2015年を国際土壌年とする決議文が国連食糧農業機関(FAO)に事務局を置く地球土壌パートナーシップ(Global Soil Partnership: GSP)主導のもと採択された。また、12月5日を世界土壌デーとすることも同時に採択された。この決議は、持続的な食糧安全保障を希求する国際社会において、土壌に対する認識の向上と適切な土壌管理を支援するための社会意識の醸成が喫緊の課題であるという強い認識によるものである。**

# 土壌への関心が低下している

## 土への関心

(平井・平井、2014、日本土壌学会東京大会、口頭発表結果より抜粋)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中学	高校	農	教育	工学	国際
(人数)	103	109	105	117	104	106	158	274	74	61	58	101
できるだけ知りたい	69.9	57.7	47.6	31.6	51.9	16.0	25.9	20.8	54.1	14.8	8.6	13.9
少しは知りたい	21.4	31.2	47.6	57.3	40.4	56.6	52.5	57.7	45.9	68.9	65.5	67.3
知りたいとは思わない	8.7	8.3	4.8	11.1	7.7	27.6	21.5	20.4	0.0	16.4	25.9	18.8

平成27年度第一回土壌教育委員会資料

# 「土壌教育に関する要望書」

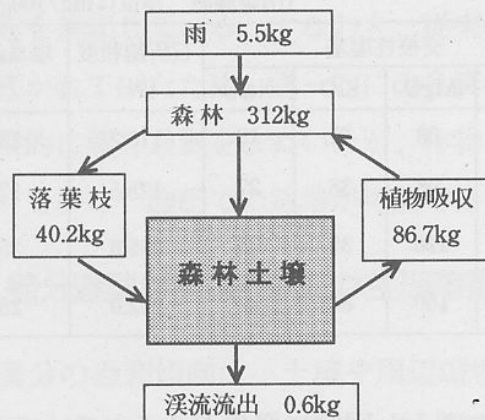
## 学習指導要領の次期改訂に向けて

### 日本土壌肥料学会 2015.1.29.

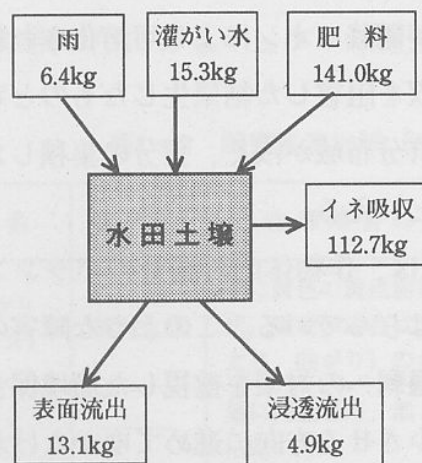
- ①小学校においては、第3学年の理科で1998年に削除された「石と土」の項目を学習指導要領に復活すること。
- ②中学校においては、理科第2分野の中で土壌動物に触れる際に、「土壌呼吸」を関連する項目として取り上げること。
- ③高等学校においては、「土壌断面」を生物基礎、あるいは生物において取り上げること。

# 畑からは窒素が流失している

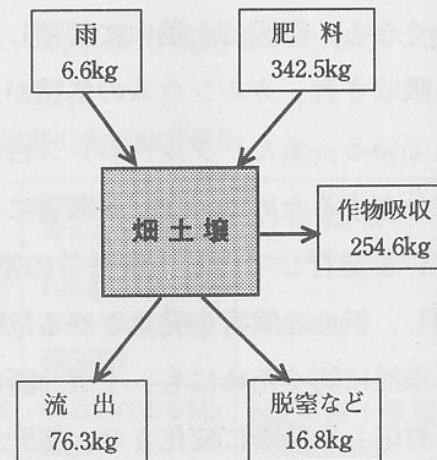
森林 (岩坪, 1976より)



水田 (田淵, 1985より)



畑 (小川, 1976より)



藤原俊六郎ら  
土壌診断の方法と活用  
農文協 1996

森林、水田、畑の窒素収支(ha当たり)

# 最も重要とされる養分元素である 窒素の動態

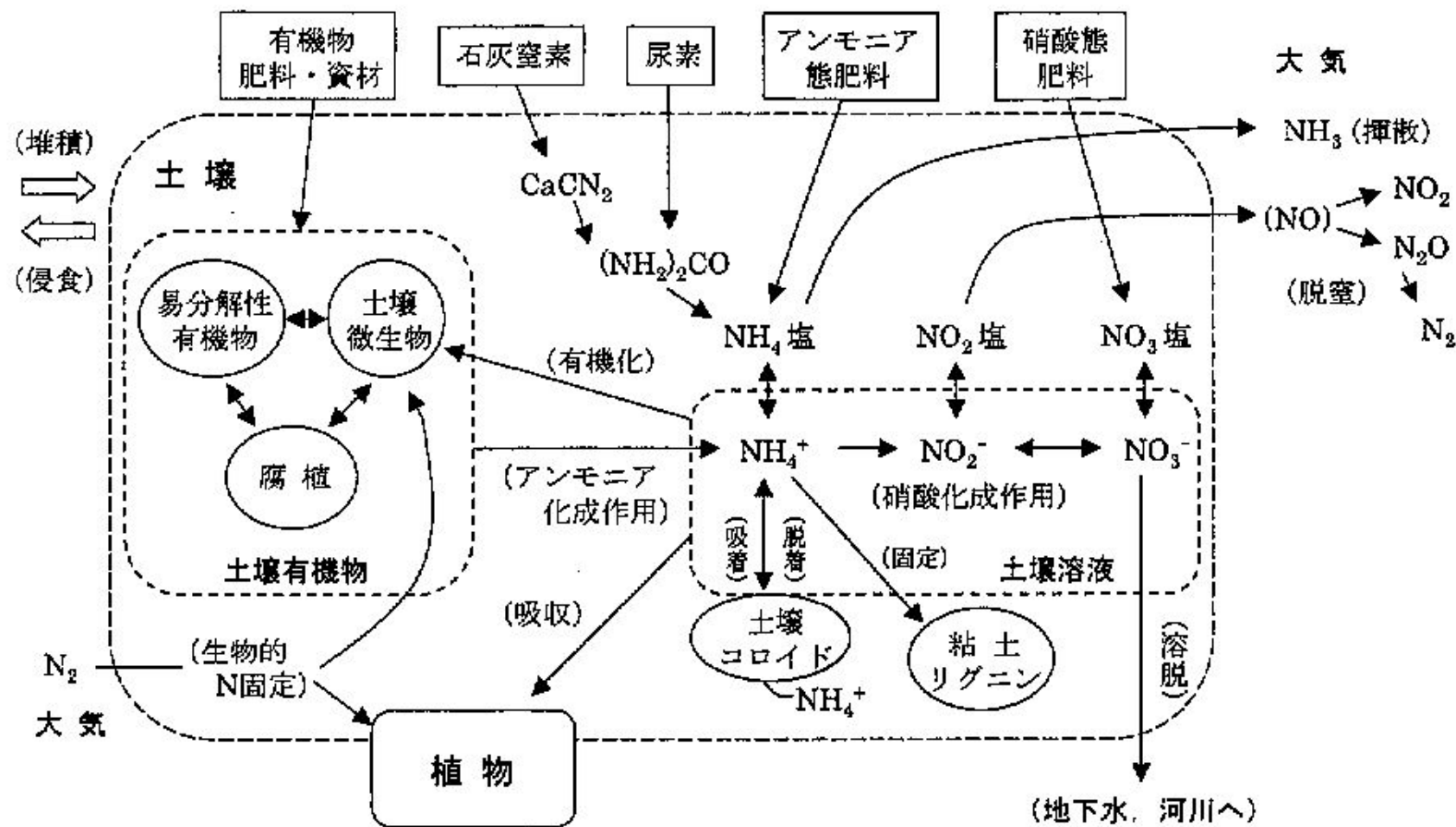


図 1.7 土壌における窒素の形態変化とフロー





2015  
国際土壌年



名城大学農学部生物環境科学科  
Dept. of Environmental Bioscience, Faculty of Agriculture, Meiji

# 自然栽培の試み —無肥料・無除草・不耕起— とくに窒素とリンの動態について





# 無肥料・無農薬にこだわる自然栽培生産者

木村秋則氏(青森県弘前市)

2003年10月25日現地で井口シェフが話を伺う



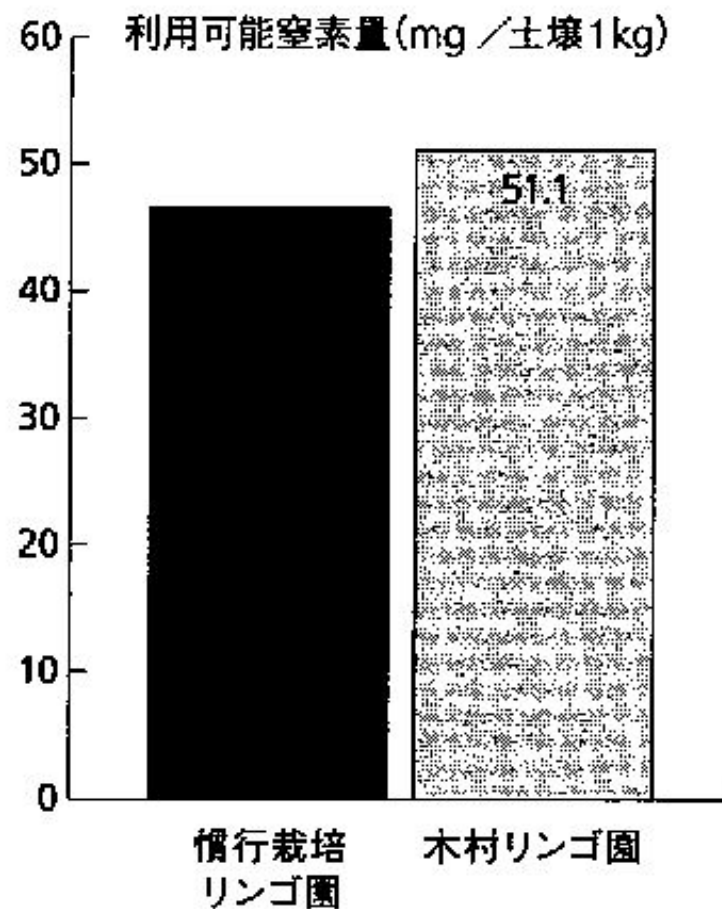
下草の多さがうかがえる木村さんのりんご

なぜ木村さんはりんごを無肥料で作り始めたのか



<http://www.cheziguchi.com/kimura.htm>

# 木村リンゴ園と隣接する慣行栽培 リンゴ園の土壌中のより多い





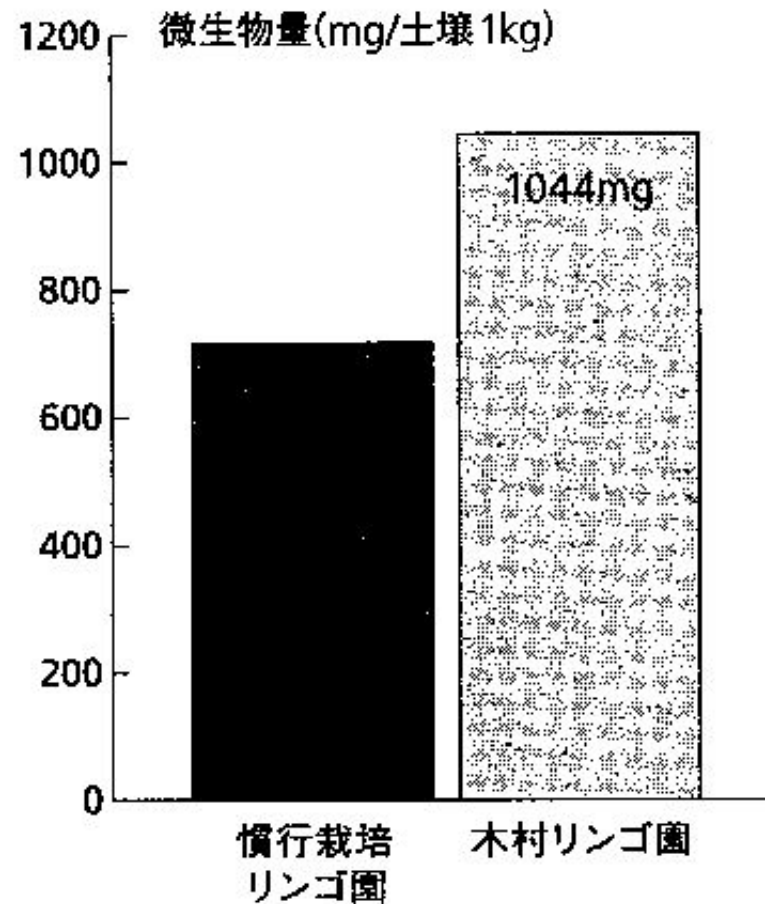


2015  
国際土壌年



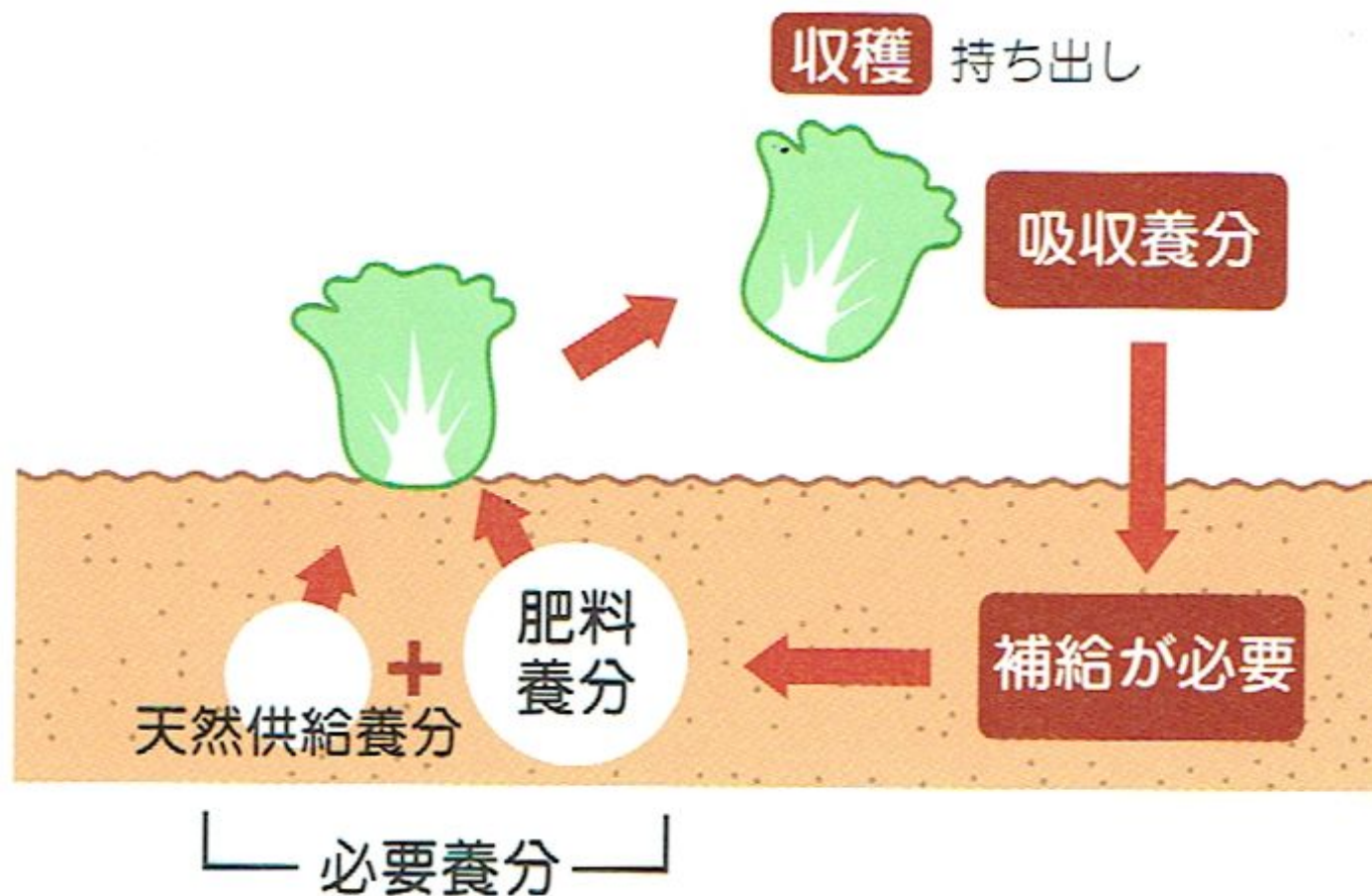
名城大学農学部生物環境科学科  
Dept. of Environmental Bioscience, Faculty of Agriculture, Meiji

# 木村リンゴ園に住む微生物の量は、 慣行栽培リンゴ園より多い



杉山修一 すごい畑のすごい土  
幻冬舎 2013

# 肥料はなぜ必要か？



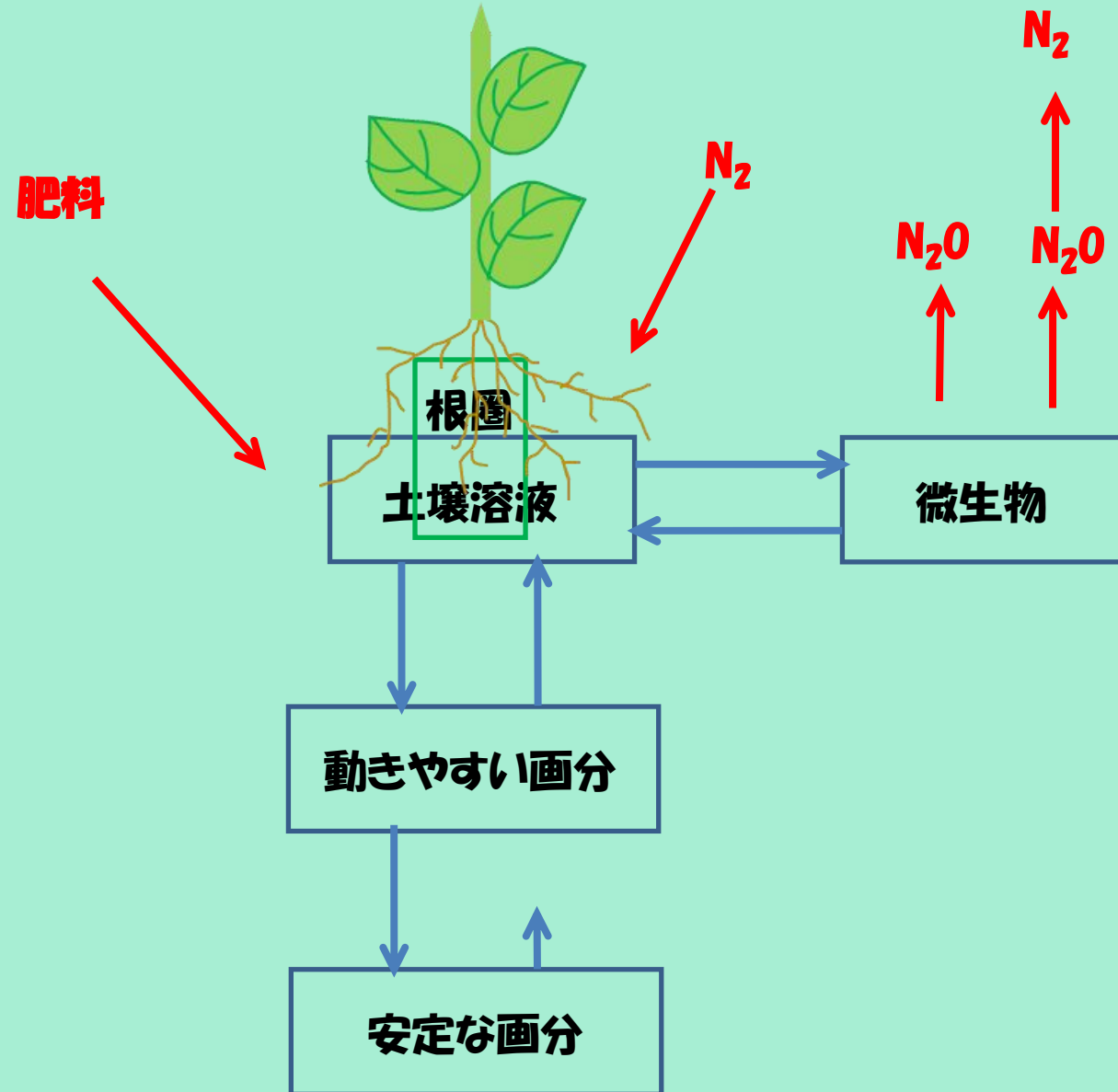


2015  
国際土壌年



名城大学農学部生物環境科学科

Dept. of Environmental Bioscience, Faculty of Agriculture, Meiji University





# 自然栽培を実践する生産者は増えている



見学会 名城大学農学部附属農場にて



勉強会 農業生産法人みどりの里にて